

# 真に社会と運命を共にする世界の一流企業

外交学院学生代表

見学日時：2019年11月29日（金）15:30-19:30

見学場所：三菱商事株式会社

## 見学概要

三菱商事での活動内容は、主に説明会と懇親会の二つであった。

説明会ではまず三菱商事の西浦完司代表取締役と中国大学生訪日団の程海波団長からそれぞれ挨拶があった。その後、地域統括部の池田統括マネージャーより三菱商事の発展の歴史と三菱グループの三綱領である「所期奉公、処事光明、立業貿易」の精神についての紹介があった。その中で池田マネージャーは、三菱商事の各時期における形態の変化や機能の改善によるビジネス環境の変化への対応と逆境の克服に関して、時間を軸とした解説をされた。さらに三菱商事の業態変革事例の解説においては、金属資源事業、食品流通事業、自動車事業の状況について重点的な紹介があった。次いで人事部の中西室長から主に三菱商事内部における女性従業員の状況（従業員の多様性）についての解説があった。そして最後に、サステナビリティ・CSR部の浅野リーダーより三菱商事のサステナビリティに関する取り組みについての紹介があった。

懇親会では、平井康光中国総代表より挨拶と乾杯の音頭があり、その後団員らは三菱商事のスタッフと踏み込んだ交流を行った。懇親会ではまた三つの大学の団員から感想の発表があり、最後に程海波団長からの挨拶で訪日団の三菱商事での見学は幕を閉じた。

## 質疑応答

問：三菱商事はどのように女性の職場進出を促進しているのか？

答：夫がお金を稼ぎ家計を支え、妻が家事を担当するのが大多数の日本の家庭における役割分担であるが、こうした社会的現状に対して三菱商事は率先して女性の職場進出を推奨しており、女性従業員の妊娠から出産後の子どもの就学まで細やかで全面的な一連の支援措置を打ち出している。こうしたヒューマンケアと勇気はとても印象的なものである。

問：三菱商事は社会的責任の面でどういった取り組みをしているのか？

答：三菱商事は1973年から社会環境室を設置し、「共生社会の実現」、「次世代の育成」、「環境保護」の三大テーマをめぐる社会貢献活動を行っている。災害支援（東日本大震災など）のみならず、母子家庭を対象とした「自然教室」、芸術家を志す人用に作品の公開販売を行い奨学金とする活動、熱帯林の再生、身体が不自由な人へのサポートといった公益事業により、社会に対して企業としての貢献を続けている。

## 感想

まず人材育成の面で私たちは三菱商事には人材に対する研修プロジェクトが存在することを知った。この研修は様々な需要を踏まえ各方面における能力の育成を行うもので、懇親会で三菱商事のスタッフらと交流した際、彼らはいずれも一定期間中国での研修を行っていたことが分かったが、これもそうした研修の一環であった。こうした学習は従業員に一定レベルの中国語をマスターさせると同時に、中国の国情への理解による会社と中国との提携への関わりを容易にし、さらに日中友好交流活動において自身の率直な感想を述べ、さらに中国側との交流によって印象の中の中国と現在の中国との違いを知るなど、自身の中国への印象を積み重ねることを可能にする。こうした交流のプロセスは日中の友好交流を推し進める一つの原動力になると言える。

次に世界の一流企業である三菱商事の時代の流れへの順応を目的とした積極的な変革である。この点についてはまず三菱商事の歴史の各段階において行った業態の変革に示されている。例えば金属資源事業においては、当初は単純な輸入のみであったが、その後オイルショックにより市場が悪化し仲介機能が必要とされなくなったため、三菱商事は輸入に加えて関連の出資を行うとの戦略を始め、川上の「資源開発」分野に進出し、鉱山事業を共同経営し、資源開発における地位を確かなものとした。それと同時に三菱商事はグローバル貿易に狙いを定め、指揮拠点をシンガポールに移し、貿易の便利化と市場の拡大を実現した。またこうした積極的な変革はさらに三菱商事の「低炭素社会への移行」、「自然環境の保全」等の課題への取り組みにも示されており、「環境価値」を中期経営戦略における三つの価値の一つとして世界規模の環境保護の流れに順応した活動を続けている。

